

# 学力向上を目指して

この度、平成30年度全国学力・学習状況調査（平成30年4月17日実施 対象：小学6年生、中学3年生）の結果が示されました。これは、学力や学習状況を測る一つの指標ですので、調査結果を真摯に受け止め、課題を共有して、学校や家庭における「子どもの学び」に対する意識を高めなければならないと考えています。

一人一人の子どもの力を最大限に引き出し、学力を身につけさせることが、子どもの自尊感情を高め、将来を拓く原動力となるという思いに立ち、教育委員会や学校、家庭、地域が、それぞれの立場から連携して子どもたちの学力向上を図りたいと考えています。

## 平成30年度全国学力・学習状況調査の結果

### 1 教科に関する調査

(1) 結果の概要 (A問題：主として「知識」に関する問題、B問題：主として「活用」に関する問題)

#### 【小学校】

調査問題	平均正答率		
	西海市	長崎県	全国
国語A	66	69	71
国語B	50	54	55
算数A	60	62	64
算数B	47	50	52
理科	59	60	60

#### 【中学校】

調査問題	平均正答率		
	西海市	長崎県	全国
国語A	73	75	76
国語B	58	60	61
数学A	59	65	66
数学B	39	45	47
理科	63	66	66

※平成29年度から、県、市における平均正答率は、小数点以下を四捨五入した整数表記となっているので、全国の平均正答率においても、四捨五入した整数表記としています。

(2) 調査結果にみる本市の課題

教科ごとに、次の項目に課題が見られました。

#### ◆国語

- ・既習の漢字を正しく読んだり、書いたりすること。(小)
- ・目的や意図に応じて、適切な本や文章などを選び、自分の考えを明確にしながらかき読むこと。(小)
- ・語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと。(中)
- ・古典に表れたものの見方や考え方を理解すること。(中)

#### ◆算数・数学

- ・割合、基準量、比較量の関係を理解し、百分率を求めること。(小)
- ・示された資料や条件を関連付けながら、答えの根拠を記述すること。(小)
- ・図形や関数に関する知識を理解すること。(中)
- ・事象の特徴を的確に捉えたり、筋道を立てて考えたりしながら、数学的な表現を用いて説明すること。(中)



#### ◆理科

- ・これまでに学習した知識や、観察や実験から得た情報を、目的に応じて活用すること。(小)
- ・より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述すること。(小)
- ・規則性や既習の観測方法、記録の仕方を活用するなどの、知識・技能を活用すること。(中)
- ・探究の過程を振り返り、新たな疑問をもつこと。(中)

### 2 質問紙調査

(1) 児童生徒質問紙（一部抜粋） **\*\*\***・・・全国を大きく上回る **\*\*\***・・・全国を大きく下回る

	(%)	平成29年度				平成30年度			
		小学6年生		中学3年生		小学6年生		中学3年生	
		本市	全国	本市	全国	本市	全国	本市	全国
1	朝食を毎日食べている。	86.4	87.0	79.7	82.7	81.2	84.8	<b>85.3</b>	79.7
2	自分には、よいところがあると思う。(「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」)	<b>71.2</b>	77.9	66.9	70.7	85.3	84.0	<b>84.8</b>	78.8
3	将来の夢や目標を持っている。(「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」)	82.7	85.9	66.8	70.5	87.9	85.1	73.0	72.4
4	平日、1日当たり2時間以上、テレビやビデオ・DVDを見ている。	<b>63.9</b>	55.7	49.6	49.1				
5	平日、1日当たり1時間以上、携帯電話やスマートフォンで、メールやインターネットをしている。	<b>15.2</b>	20.5	49.9	50.4				
6	家で学校の宿題をしている。	83.8	88.0	<b>55.9</b>	67.7	87.4	87.9	68.2	68.5
7	学校の授業時間以外に、平日1時間以上(中学3年生は2時間以上)、学習をしている。	61.2	64.4	17.4	35.4	<b>56.6</b>	66.2	<b>20.4</b>	36.4
8	学校の授業時間以外で、平日、1日30分以上読書をしている。	33.0	36.5	21.3	29.2	37.2	41.1	31.3	30.9
9	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる。(「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」)	89.6	85.1	<b>83.2</b>	75.5				
10	国語の勉強が好きである。(「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」)	61.2	60.5	59.4	60.5				
11	算数(数学)の勉強が好きである。(「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」)	64.9	65.9	<b>45.6</b>	55.4	<b>53.9</b>	64.0	57.4	53.9
12	理科の勉強が好きである。(「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」)					<b>74.9</b>	83.5	59.3	62.9

(2) 調査結果にみる本市の児童生徒の傾向と課題

- 中学校は、「朝食を毎日食べている。」と回答した生徒の割合が増加し、全国を大きく上回る。
- 「自分には、よいところがあると思う。」と回答した児童生徒の割合が増加し、特に、中学校は全国を大きく上回る。

**西海市の児童生徒のよさである肯定的に自己を捉え、前向きに取り組む姿勢を学習意欲につなげ、学力の向上を図ることができるかが西海市の課題です。**

- 小学校、中学校共に、家庭学習の時間が全国を大きく下回り、特に3時間以上の家庭学習に取り組んでいる割合の差が大きい。(3時間以上の家庭学習 小学校-8.3%、中学校-8.1%)

- 小学校は、「算数(数学)の勉強が好き」「理科の勉強が好き」と回答した児童の割合が、全国を大きく下回っている。

**児童生徒が各教科の興味関心を高めるような授業づくりの工夫を推進するとともに、家庭学習をいかに充実させるかが、西海市の大きな課題です。**

## 学力向上のために

◇全国学力・学習状況調査の結果から、次のような子どもが、学力が高い傾向にありました。

時期を見て、自分の姿と照らし合わせて5段階で自己評価をさせるとともに、それに対して保護者から励ましの言葉を贈るなど、御家庭で活用ください。

【自己評価日：平成30年 月 日】



	具体的な姿	自己評価
1	朝食をとり、決まった時刻に起床・就寝するなど、生活のリズムが整っている。	
2	家庭学習の時間を確保したり、テレビやゲームの時間を少なくしたりして、家で計画を立てて学習している。	
3	ニュース番組を見るなど社会の出来事に関心を持ったり、一日の出来事について家族とよく話をしたりしている。	
4	難しいことにも挑戦し、最後までやり遂げている。	
5	意見を発表したり書いたりするときには、理由（根拠）をはっきりさせたり、表現の仕方を工夫したりして、分かりやすく伝えている。	
6	調べ学習では、課題を意識し、それを追究（調べたり考えたり）して、成果を発表している。	
7	授業で問題を解くときなどには、「なぜそうなるのか」「他の方法はないか」ということを考えている。	

### ★自己評価

5：よく当てはまる      4：だいたい当てはまる      3：ときどきは当てはまる  
2：あまり当てはまらない      1：全く当てはまらない

保護者からのコメント

## 学校の取組

◇学校では、全国学力・学習状況調査結果を受け、次のような授業に努めます。また、学校の課題に応じた学力向上アクションプランを作成し、着実に課題解決に努めます。

- 授業のはじめに、学習のめあてをしっかりと設定し、授業の終わりに「できるようになったこと」と「まだ、できるようになっていないこと」を確認し、まとめる
- 授業内容を振り返ることができるような児童生徒に分かりやすい構造的な板書を行う。
- 子どもの努力や伸びたことを積極的に認め、学習意欲を高める。
- 子どもたちから複数の意見が生まれるような問いを発し、その共通点と相違点を明らかにしながら、より良い意見となるよう考えさせる。
- 「なぜそうなるか？」について考えさせ、子どもに言葉で説明させる場面を設定する。
- 「総合的な学習の時間」において児童生徒自身が自分なりの課題を設定でき、課題を解決するために調べ、追究できるような学習の流れにする。



## 西海市の取組

◇西海市教育委員会では、今年度から「西海市 AI(あい)プラン (Academic Improvement Plan)」を立ち上げ、西海市小・中学校校長会と協力しながら、子どもたちの力を伸ばし、自信をつけさせるため、以下のような取組を推進します。

- 「わかる授業」、「魅力ある授業」、「達成感のある授業」づくりの基盤となる教員の授業力を高めるために、学力向上スーパーバイザーを定期的に学校へ派遣し、指導助言等を行う。
- 年間2回、小学校は5、6年生を対象に漢字検定、中学校は全ての生徒を対象に英語検定を行う。
- 授業改善につながる講演会や研修会を実施する。
- 西海市教育委員会が作成した「授業実践の視点」や「学力向上のためにすぐに取り組める授業改善対策」を全教職員に示し、それに基づいて具体的な授業を展開するよう指導する。
- 中学校区ごとに、教員による「小中連携検討チーム」をつくり、定期的に、中学校区ごとに「小中連携検討会」を開く。共通実践事項の検討等を行うことによって、小・中学校が連携した授業改善への取り組みを進める。
- ICT教育を充実させるなど、教育環境の整備に努める。
- 子どもたちの自主的に学習に取り組む態度や活用する力を伸ばすために、家庭学習等で取り組むことができる課題（練習問題）を整理し、積極的な活用を求める。